

# やじうま議会のウォッチング

平成28年6月議会「行政と議会の無責任さが明るみに！」



平成28年6月議会は、陳情4件、町長提出議案3件が審議。

本会議は、8人の一般質問。5日間の開催でした。

## 防災についての一般質問で明るみに出た行政と議会の無責任さ

町役場の耐震化は平成8年度の耐震診断結果で耐震が必要と出たのに20年も放置されています。

ごみ処理広域化、ラディアン裏用地、東大ニ宮果樹園などの土地購入、ラディアンの整備などで約80億円出費したから、建て替え又は移転新築に18億以上の費用がかかり、難しいとのことでした。行政対応の遅さ、80億円の出費、無計画さを今回の6月議会でも誰も厳しく追及しませんでした。

この20年間容認してきた議会。個々の案件に反対や問題視した議員でも継続して検証してこなかった無責任さは問われるでしょう。

## 実態を把握して、町の回答に再質問で厳しく追及して

町から現状を説明させるのは、議員質問の本来の趣旨ではないと思います。

事前に実態を十分把握し、町が説明した現状説明に対して町の認識の甘さ、住民サービスの質や協働の観点から問題点を再質問で厳しく追及すべきです。そうすることで、より良い町政運営を目指してこそ議会の機能が果たせるのではないのでしょうか。

町からの現状説明を引き出すだけでは、町の対応を容認し、町のPRを手助けしているだけに過ぎません。議会を見直し、一般質問を一問一答方式に変えた甲斐がありません。

## 議会が仲良しクラブになったらおしまい！

町と議会の関係は緊張感が常になければなりません。議長は

もとより、全議員が強く自覚してほしいと思います。

町財政は逼迫し、消滅可能性都市と指摘されたニ宮町。

この厳しい試練を乗り越えるために、町と議会とが一丸となることは、仲良しになって、議会が町に同調することではありませんか。議会は、町の見解、計画に対して様々な観点から問題を指摘し、最善の方法を決定することが必要だと思えます。

## 決定、判明、追及しなかったことに責任を

議会は個々の案件で決定したこと、判明したこと、追及しなかったことに責任があります。

「反省も責任もとらず、最終的に全て住民にしわ寄せ」では、間違いです。

確固たる実り多い対策が実践されるよう、議員は調査研究に励み、議会が機能することを期待します。

## 議会番外のウォッチング

6月議会の「やじうま議会ウォッチング」の中で「精神障害者の交通運賃割引制度適用を求める意見採択についての陳情」への野地議員の反対討論に問題があったことを掲載しました。

公表された会議録はハワイが沖繩に変更され、次のとおりでした。

「現在の交通費割引制度をそのまま適用した場合、例えば覚醒剤など薬物を使用し、人を殺めてしまった人。アルコール摂取によりDVを犯してしまった人も、手帳を持ってさえいれば、例えば沖繩へ遊びに行く個人の旅行の航空運賃も含めた交通費が半額となります。議員の皆様はこれに「よし」とほんとうにお考えになっていくのでしょうか。」

議会は、これで一件落着。下調べもせずに、差別や誤解を増長させかねない発言をしても許されるのか？

## 9月議会を楽しもう！

議会開催予定 9月2日～26日

この期間中に平成27年度決算審査特別委員会も開催されます。

しお風ブログ <http://shiokaze.blog.jp/> で「議会ウォッチング」を発信し、「しお風いどコミ」で町財政、議会、予算編成公表のあり方についての意見交換もしたいと考えています。

お問合せ まちづくり工房「しお風」神保

☎090-3142-9358

メールアドレス [shiokaze@mj.scn-net.ne.jp](mailto:shiokaze@mj.scn-net.ne.jp)

	議員名(敬称省略)	質問	傍聴コメント
一般質問 6月8日	前田憲一郎 (1期)	二宮町の健康づくり事業について 1 就学前子どもに対する体力づくりの見解・方針 2 20~40代の町民が運動に親しむ施策 3 健康増進計画の中にある町民や地域の取り組みに対する支援事業の予定 4 目標達成年度平成36年度までの健康増進の推進方法	知識を披露するのはほどほどに。質問に入るまでの前置きが長く、質問のポイントがわかりにくく、議長からも注意を促されました。結局、一般的な回答しか得られず、二宮の独創性を具体的にアピールするものではありませんでした。 町が健康増進計画の目標達成年度平成36年度までの具体的な方策がなく、何故達成できないと思うのか具体的に例示して、説得力のある質問をしてほしいと思います。
	二宮 節子 (1期)	災害に対する町の取り組みについて 1 町役場の耐震化 2 業務継続計画 3 指定避難所の非構造物への耐震化対応 4 避難所等のトイレ設備の認識と対応 5 被災者支援システム	具体的な質問で町役場の耐震化の方向性や地域の備蓄状況を町が把握していないなどの災害に対する町の取り組みが不十分であることが判明しました。 しかし、議員自身が実態を調べていないのか、今後どうすべきなのか、町がもっときちんと取り組ませるところまで質問を迫ることはなく、残念でした。
	善波 宣雄 (1期) 総務建設経済常任委員会副委員長	役場庁舎・駅前町民会館の安全性について 1 災害対策本部となる役場庁舎の安全性 2 役場庁舎の安全な場所へ移転、耐震補強 3 災害時の駅前町民会館の安全性 4 耐震補強できない駅前会館の今後	役場庁舎と駅前町民会館に的を絞った質問だったので、町の対策の遅れについて厳しく糾弾し、早急に具体的な対策を引き出せるのかと期待しました。しかし、財政課長の「土地購入の80億円の出費で役場庁舎の耐震化が後回しになった」という回答に「わかりました」と言って引き下がってしまったのは問題です。
	渡辺 訓任 (1期) 議会運営委員会副委員長	町の災害対応力の強化・充実を求める 1 「地区防災組織活動マニュアル作成の手引き」に基づいた各地区でのマニュアル作成の進行状況 2 机上訓練実施の今後の計画 3 広域避難所の収容力や施設数・設備、山西小の広域避難所の安全性 4 一時避難所・広域避難所の位置づけの柔軟性 5 震度計の移設についての進捗状況 地域公共交通の充実 1 地域公共交通の実績と状況 2 現在の検討内容・進捗状況、事業の見直し、新しいシステム立ち上げの見通し 町立小中学校へのエアコン設置を求める 1 学校教室の環境、特に気温 2 教室へのエアコン設置の来年度実現可能性	町の災害対応力の強化・充実を求める質問でしたが、町が地域まかせ、防災計画の遅さなどが判明しただけで、具体的な対応策を引き出せませんでした。対応の鈍さを厳しく追及する毅然とした姿勢をもってほしいと思います。 地域公共交通の検討に多額の費用をかけて、見直しばかりしていることの問題を厳しく追及してほしい。現状や検討内容の説明を町に回答してもらうのに質問時間を費やすより、二宮町がもう無駄に予算を費やす余力がないことを示し、町執行者に危機感をあおるくらいの迫力ある質問をしてほしいと思います。 小中学校へのエアコン設置が「費用が許せば実施したい」、「他の事業を組み換え整理して検討したい」という回答を教育長、町長から最終的に得られました。これで終わりとしなくて、財政的な裏打ちを今後も追及してください。
一般質問 6月9日	露木 佳代 (1期) 議会だより編集委員会副委員長	より良い学校給食の実現を求める 1 学校給食の大事なこと 2 学校給食に関する保護者の意見、要望への対応 3 食材、産地、放射能検査、添加物、献立、給食実施回数 4 特色ある給食を取り入れる考え 5 災害時の給食センターの活用	学校給食に的を絞った質問でしたので、いつも以上に歯切れの良さ、具体的な提案をするのか、とても期待していました。 しかし、古い学校給食センター時代からされていた議論からあまり変わらない町の回答に失望しました。今の町財政の逼迫度の中で、土地を購入して新しい学校給食センターを整備した費用対効果を考えて、抜本的な町の考えを変える必要があると思います。教育環境の向上の観点からの費用対効果を加味した迫力ある質問を今後期待します。
	小笠原 陶子 (5期) 教育福祉常任委員会委員長	二宮町の橋りょうの改修について 1 中堰橋の閉鎖の経緯と開通までの期間 2 二宮町橋りょう長寿命化修繕計画(平成25年3月策定)のランク2(安全性に影響を及ぼす損傷あり)以下の今後のスケジュール 3 14か所あるランク2の回収順番	中堰橋の改修目途どころか、構造図面もなく、改修に手をつけようとしていないこと。また改修が必要な橋梁の順番を明らかにする改修計画もないことも判明しました。 しかし、橋りょうの改修は費用もかかり、今後どうしていくかまったく不明のままでした。これで質問が終わってしまっただけの疑問です。
	野地 洋正 (1期) 教育福祉常任委員会副委員長	「安心して住み続けられる地域再生事業」公共施設再配置・町有地有効活用等の検討、一色小学校校区地域再生事業は、今後どう進むか 1 「安心して住み続けられる地域再生事業」の目的と2つの事業の関連性 2 公共施設再配置・町有地有効活用等検討事業の目的、現在の進捗、タイムスケジュール、今後の進め方 3 一色小学校校区地域再生事業の目的、現在の進捗、タイムスケジュール、今後の進め方	今年度目玉となる地域再生事業と重要課題である公共施設再配置と町有地有効活用等についての質問で期待していました。 地域再生事業では、ここで検討した結論と公共施設再配置との整合性、協議会が任意の団体でそこに町が1200万円投入していること、構成員に若い人が入っていないこと、一色小学校が存続することは再配置の二宮町の教育方針に乗っ取ったものにならないのではなど問題点を指摘。また公共施設再配置と町有地有効活用の検討の遅れなども追及しました。しかし、町から軽く回答をかわされ、町の実態把握の不十分さ、費用対効果について数値や他都市などの比較から具体的に示し、鋭く町の対応の危機感のなさを追及してほしいと思いました。
	一石 洋子 (1期)	協働の防災減災文化の根付くまちづくりを実現するために 1 ハザードマップの修正と限界、今までのシミュレーションと今後の取り組み、自主防災組織との関わり、牽引、学校と連携した防災学習体験 2 機能別消防団、裾野を広げた後方支援体制 3 福祉と防災の視点	質問の中で協働の防災減災文化の根付くまちづくりを実現するために、様々な観点から問題点を指摘し、提案もしていました。 しかし、町の回答が現状説明に止まり、再質問で回答が実態評価とかけ離れたものであることを厳しく追及しなければ、容認したことになってしまいます。協働、防災減災文化の観点から町の対応が具体的にどこに問題があるのか指摘しながら、町の対応の鈍さを住民の立場から厳しく追及してほしいと思いました。再質問の追求の技術を研究してください。
質問しなかった議員(敬称省略・議長を除く)		杉崎俊雄、柳川駅司、二見泰弘、桑原英俊、根岸 ゆき子	